

データ利用研究推進グループからの報告

令和2年7月21日

静止気象衛星に関する懇談会

データ利用研究推進グループ

データ利用研究推進グループについて

- 『懇談会の下に、主に若手研究者から成る「データ利用研究推進グループ」を設け、データ利用研究活動にあたっての意見交換を図る。活動の状況は、適宜、懇談会に報告する。』
(静止気象衛星に関する懇談会 運営要領 10項)
- 本グループは、平成30年度まで開催されていた「静止衛星データ利用技術懇談会」の下に設置された「ひまわりデータ利活用のための作業グループ(大気・地球表面分野)」を引き継ぐもの。

第1回会合 議事概要

日時：令和2年1月23日(木)17:15～19:00

場所：気象庁本庁 予報部会議室

出席者：計14名(Web会議によるリモート参加者含む)

(大気分野)

入江仁士 千葉大学環境リモートセンシング研究センター准教授

久保田拓志 JAXA/EORC主任研究開発員

佐藤陽祐 北海道大学大学院理学研究院特任准教授 (リモート参加)

清木亜矢子 海洋研究開発機構 地球環境部門研究員 (リモート参加)

グループ長 ◎ 中島 孝 東海大学情報理工学部教授(リモート参加)

濱田 篤 富山大学都市デザイン学部准教授

本田 匠 理化学研究所計算科学研究センター特別研究員 (リモート参加)

(地球表面分野)

可知美佐子 JAXA/EORC研究領域主幹

樋口篤志 千葉大学環境リモートセンシング研究センター准教授

平田貴文 北海道大学北極域研究センター特任准教授

堀 雅裕 JAXA/EORC主任研究開発員

副グループ長 ○ 本多嘉明 千葉大学環境リモートセンシング研究センター准教授

村上 浩 JAXA/EORC研究領域主幹(主幹研究開発員)

森山雅雄 長崎大学大学院工学研究科准教授

【概要】

- ・ひまわり8号・9号の観測精度等の現状を気象庁より報告
- ・後継衛星の技術検討の状況について気象庁より報告
- ・後継衛星搭載のイメージャの仕様について議論

【イメージャの仕様についての意見】

- 後継衛星では、既存の16バンドに加え、1～2バンド追加することが望ましい。
 - 1.38 μm : 上層雲検出の高精度化
 - 0.38 μm : 火山灰の観測による航空気象への活用
- 0.38 μm は開発コストが生じるため、難しいのではないか。

【その他の意見】

- 仮に、イメージング機能に加えてサウンディング等の新たな観測機能を同時に搭載するのであれば、地上に伝送するデータ量が増大しても大丈夫か検討する必要があるだろう。
- 米国が実施しているような、地上からの観測を用いた、衛星観測データの品質の比較・検証キャンペーンの候補となる観測地点が、国内やオーストラリアにも存在するので、それらを活用した検証が必要ではないか。

【今後について】

ひまわり後継衛星の仕様検討の参考とすべく、学術的な視点から要望や情報を提供していく。